

令和7年度【2025年度】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	荒川区立第二南千住保育園
----	--------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・土や砂、水を使って混ざりあいや形の形成、感触などを楽しむ。
- ・畑や園庭で草花の栽培や虫の観察をする。

<テーマの設定理由>

- (テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
- ・通年を通して園庭での遊びや畑での探索活動が盛んである。
 - ・土や砂、水を使つての遊びが更に発展するように素材や、道具などの環境を整えていく。

2. 活動スケジュール

- ・水遊び、プール遊び後の9月頃より、本格的に活動始動する。
- ・担当クラスが検討事例の書式を作成し、各自に配布する。各自が意見や提案、質問を付箋に記入し、グループで集まり、協議する。
- ・各グループで検討した付箋を事務所のホワイトボードに貼り、全体で共有する。
- ・月末の職員会議で各グループ(5グループの予定)から報告をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- (活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
- ・2期消耗品購入素材 土(黒土、腐葉土、赤土、鹿沼土) 糊
 - 道具(たらい、トコ舟、スコップ、シャベル、麻袋) 全園共通購入品(デジカメ、水中カメラ)
 - ・3期購入予定品 図鑑、本、スマホなど

4. 活動の内容

- ・すくわくPT発足(第1回6月3日、第2回7月4日)
- 事例提出クラス ・9月0歳児 ・10月1歳児 ・11月2歳児 ・12月5歳児 ・1月4歳児 ・2月3歳児
- 3月今年度のまとめ

令和 7年 8月 1日(金) 5日(火)

0歳児 ひよこ組

環境構成

使用した素材、道具



- ・砂場の土(土、泥)
- ・ジップロック
- ・レジャーシート
- ・透明ドリンクボトル 400ml
- ・タライ

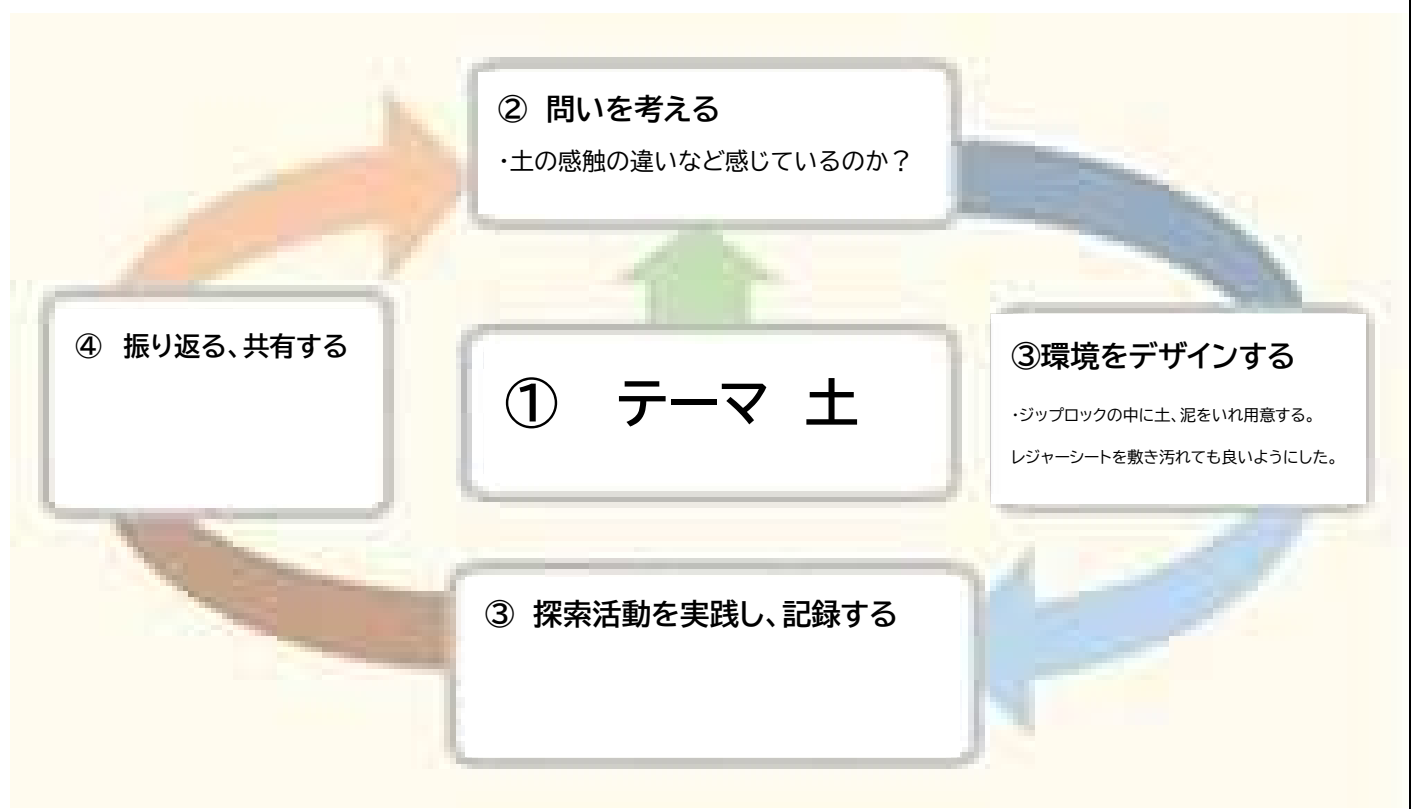


写真 (コメント)



- ・高月齢児は積極的に砂に興味を持ち、触りに来る姿が見られた。
- ・砂の感触を楽しむ中、手についた砂を毎回はらい落としてからまた砂を触る児や、手や足についても気にせず豪快に遊び続けている児など高月齢児の中でも一人ひとり違った反応が見られた。
- ・低月齢児ではジップロックの中に砂、泥を入れたものを用意した。つまもうと指に力を入れたり、泥をにぎろうとぐしゃぐしゃかき集め、足をバタバタと楽しんでいるような姿が見られた。また、砂の入った袋を持ち上げたり、叩いて感触を確かめようとする様子もあった。

次の保育に向けて

- ・今回は夏の時期で戸外は暑く室内での活動だったので園庭ではどんな反応になったのか気になる。
- ・今後、全体的に月齢があがった時はどのような反応か気になる。

令和7年9月9日(火)10日(水)

1歳児 こぐま・こあら組

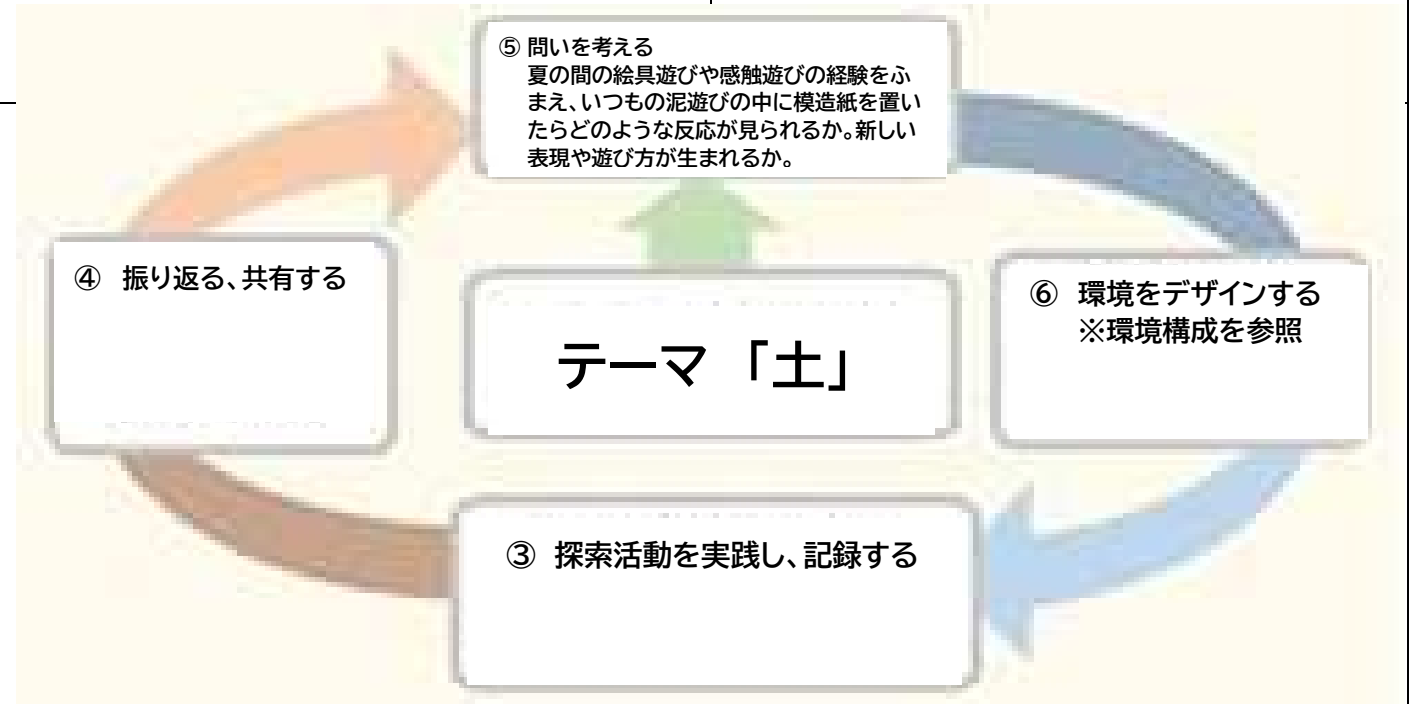
環境構成

使用した素材、道具

畑及び砂場に泥だまりを作り、模造紙を貼った板と筆、机を置いておく。



- ・土、泥、砂、水
- ・机
- ・模造紙を貼った板×2
- ・筆
- ・ボウル、カップ、バケツなどの容器



【こぐま】

日頃から泥水や色水等、裸足でダイナミックに遊んでいるので、泥水づくりから楽しめるのではと思います、興味を示した子たちと泥水づくりから始めてみた。

泥の感触が楽しいようで、ぐしゃっとしてみたり足で踏んだり等思い思いに楽しんでいた。立てかけた模造紙に気付いていない様子であったので保育者が、泥をつけてみると数名が真似をしていた。地面にも模造紙を置いてみると、見つけて足踏みをしている子もいた。模造紙に描くことよりも、泥を触ることが楽しいように感じた。2, 3人はじっくりと絵描きのように夢中になって遊んでいた。

今回は筆は用意しなかったため、次は筆を使うとまた違った面白さがあるのではと思った。



【こあら】

夏の絵具遊びで筆の経験があるからか、筆を見るとすぐに紙に描こうとする姿が見られた。保育者が手形をつける、泥に入って足踏みしてみせるなど遊び方の見本を見せていくことで、泥遊びの経験が少ないながらも保育者の真似をして遊んでみる子がいた。紙を伝って泥が流れる様子をじっと見ている子がおり、流れた泥がガムテープのところまでくると、泥水を弾いている様子をじっくりみていた。直接泥を触るのが苦手な子もいたが、筆やカップを使うことで直接泥に触らない形で泥遊びをしていた。泥の中に入るのが嫌な子は、机に置いてある泥や、小さなバケツやタライに入れてある泥を触ることで、感触を楽しんでいる様子が見られた。泥だまりを見て足をいれ、「おふろ～」という言葉も聞かれた。



次の保育に向けて】

畑で遊ぶことに慣れていない子もいたため、友だちがやっている様子を距離を取り見ている子や、興味をあまり示さない子の姿もあった。次回行う際は、畑だけでなく、普段通りの水道近くや園庭の広いところでも泥遊びができるよう配慮していきたいと思う。

また、今後は筆やスポンジなど様々な道具を使用して子どもたちの使い方や反応を見ていきたい。

【次の保育に向けて】

泥遊びの経験自体が少ない子が多いので、普段の保育の中で保育者が泥遊びしやすい環境を設定し、たくさん経験できるようにしていきたい。泥水たまりを身近なものに例えてみたり(お風呂など)、ガムテープが水を弾いている様子を見たりと子どもならではの気づきのみられたので、子どもの様子や発言に耳を傾けて、引き続き小さな気づきを拾えるようにしていきたい。

テーマ:土 『 虫さんは土が好きなんだね 』

① 問いを考える

虫が好きな子どもが多く、青虫を飼育したり、虫探しをしたりしていたので、虫を通じて土や砂へ繋げて触れていきたい。

② 環境をデザインする(使用した素材、道具))

- ・アリ ・ダンゴムシ
- ・アリの観察キット ・ハチミツ ・砂糖
- ・砂 ・水 ・カップ ・スコップ
- ・土 ・砂

③ 探索活動を実践し、記録する

ダンゴムシさんもう寒いから
ばいばいするの。



☺「どこが暖かいかな？」
土の中！ありちゃんいるところ！

アリさんどこかな？
ここかな？土の中かな？



ダンゴムシもいるかな？

ここにアリさんいた！
何してるのかな？



可愛いね。走ってる！

④ 振り返り、共有する(グループ協議報告ご記入)

◎いいね！

(テーマ)・身近な生き物で取り掛かりやすいテーマ設定。土の中のアリに焦点を当てたところ

・土で作るなどではなく、虫が好きで見つけることが得意にスポットが当たっていて良い。

(環境・物的環境)・観察キットがある為、室内でもアリの様子が見られる。(土の中が可視化できる)

(保育士の関わり)・子どもの発言をたくさん拾っている。

・興味が広がるように虫の本をたくさん用意している。

◎提案・アリの行動記録を図にしてみるの？採取から飼育の様子をドキュメンテーション作成してみるの？

・季節が違ふとどのように土と虫が繋がるのか？(例:夏 セミ)、違ふ虫や手作りキットにした時の反応は？

◎質問・虫が苦手な子への対応は？⇒うさぎ組ほぼなし、りす組2名ほどだったが、ケースの中の虫だったので安心して見ていた。苦手ならば無理に関わらなくてもと担任間で共通認識は持っていたが、友達の集まっている雰囲気に関心を持ち関わろうとする姿がみられた。

・土というテーマと虫好きな子どもたちの姿からこの事例を行ったが、グループ協議を経て様々な視点から意見が出て新たな発見に繋がった。また、今回の経験を経て、年齢があがった時に子どもたちが虫と土の関係にどのように気が付くのかも楽しみである。

テーマ:土 『土をどンドン掘ってみよう』

⑤ 問いを考える

毎日誰かが畑の土を掘ってとって来る。畑の土は砂場と違って掘ると何かが出てきたりいろいろな遊びにつながったりしていく楽しさがあるので、クラスみんなで掘ることで見えや遊びの世界をひろげるきっかけをつくる。

⑥ 環境をデザインする(使用した素材、道具))

- ・本「地面の下のいきもの」
- ・シャベル
- ・見つけたものを入れる容器



⑦ 探索活動を実践し、記録する

絵本を見た後、みんなで掘る



・普段の畑を掘っている様子に加え、1日だけクラス全員で掘る機会を作った。

・園庭に出る前に絵本を読んだ。絵本は全体で3回ほど読んだことがある。(最初は保育士が読む本にした)

・園庭に出てすぐに違う遊びにいき興味を示さない子は何か声を掛け畑に呼んだ。畑まで来るとみんなが掘ったものを見て「すごい！ほってみよう！」と気づいて掘っていた。

抜けにくい根っこがあり
みんなでのおおきなかぶごっこ

オレンジのつち
がある！

つちのかたまり
なげたらこわれるかな？



掘って掘って掘った後は・・・出てきたものを使ったり掘った穴を使ったり、畑で泥遊びをしたり

かめむしのベッド！



出てきたもの
・根っこ・木の枝・カメムシ
・どんぐりの頭・幼虫

かけるぼう！

⑧ 振り返り、共有する(グループ協議報告ご記入)

○いいね

- ・導入、畑での遊びが好きなお子に合った活動がよい。活動前にみんなで絵本を見たことで活動へのイメージや期待感が持てたこと。
- ・穴を掘るというシンプルな活動からいろいろな見立て遊びにつながっている。その時の会話や言葉をたくさん拾っていてその記録がわかりやすく、子ども達の姿が想像できた。

○提案

- ・雨上がりや違う季節にやっても、出てくるものが違い、楽しいと思う。
- ・見つけたものの展覧会や、出てきた物をみんなで描いたり本にしてみたり、写真を飾ったりするとまた楽しめる。

○質問

- ・見つけて遊んだものはその後どうしたか。興味がない子の声掛けはどうしたか。

◎これからも子ども達の興味や関心がどこにあるかを見極め遊びが発展するよう援助したり時には見守ったりしていきたい。

テーマ:土 『泥だんごをつくってみよう』

⑨ 問いを考える

泥に触れることに慣れているクラスだが、ダイナミックな遊び方が多い。泥を使ってじっくり遊ぶ機会を作り、泥遊びの世界を広げるきっかけにしたい。

⑩ 環境をデザインする(使用した素材、道具))

- ・黒土
- ・赤玉土
- ・園庭のさらさらの砂
- ・水

⑪ 探索活動を実践し、記録する



〇〇がはこぶ!

大量生産



・ブクブクしてる! バスポムみたいだね
 ・われた! ・とけた!

赤玉土は固まらない



←いちごあめ
 ↓カレー



・30分かけ作った泥だんご →
 ・10分かけて作った泥だんご →



⑫ 振り返り、共有する(グループ協議報告ご記入)

〇いいね!

- ・土を運ぶ、水を入れるなど、子ども達が自分で行っているところがいい。・長い時間かけて遊べる環境が整っている。
- ・泥だんごにならなかった赤玉土も、新たな遊びになっているところ。・バスポムに見える見立ての力!
- ・保育士も子どもと一緒に楽しんでいるところが素敵。・子どものつぶやきをしっかり「拾っている」!

〇提案

- ・品評会を開いて、他クラスを招待するのは?・掲示板などを子どもと一緒に作ってみてもおもしろいかも!
- ・5歳児まで継続したら変化をしておもしろいかも!・泥だんごのレシピを子どもたちと一緒につくってもおもしろい!

〇質問

・保育士が意図的にした関わりはありますか? →黒土と赤玉土があることは伝えたが、それ以外をあえて何もしないのが意図。子どもたちを信じて任せている。失敗もあるけど、それも学び!

◎普段の遊びの姿を事例にした。協議の中で、子どもたちの遊ぶ力、発想力などの育ちを実感することができた。今後も様々な視点からのアドバイスをもらいながら、子どもたちの遊びが広げられるような保育を行っていきたい。

令和7年11月10日

5歳児 ひまわり組

テーマ:土 『久しぶりのどろんこ遊び』

⑬ 問いを考える

最近では園庭に出ても鬼ごっこ、サッカー、虫探し、ごっこ遊びなどが主となり、泥と触れ合って遊ぶ機会が減っている。いもほりをきっかけに、久しぶりに泥とじっくり触れ合って遊ぶ機会を作りたい。

⑭ 環境をデザインする(使用した素材、道具)

様々な素材の紙(模造紙、クレープ紙、段ボール、障子紙、凹凸のある素材の紙)、筆、洗面器、絵具、テーブル

⑮ 探索活動を実践し、記録する



- ・いもほりが終わった後、そのまま同じ場所で始めた。
- ・最初は好きなようにぐるぐると筆を走らせていたが、後半は形を描いたり、手形をつけたり、芋の葉の裏に泥をつけてスタンプする子もいた。
- ・途中から絵具を加えると、泥と混じり合う様子をじっくり観察したり、様々な色と泥の組み合わせで色の変化を楽しんでいた。
- ・支援児も他児も同じように同じ場所で楽しんでいた。
- ・畑での遊びにあまり参加しなかった子も、園庭で久しぶりに泥遊びをする姿があった。
- ・遊びが盛り上がっている時には遠くで様子を見ていて、人が減ってきたタイミングで参加し、ゆったりと楽しむ子もいた。

⑯ 振り返り、共有する(グループ協議報告後記入)

いいね!

- ・泥遊びをする姿が減っている中で、いもほりの活動から自然に泥遊びの活動につなげたところ
- ・いもほりの後に行ったことで、葉っぱなどの自然物も使うことができた ・支援児も一緒に楽しめた
- ・紙類だけでなく、机を使用したことで何度も描いたり消したりできたところ

提案

- ・終わった後の段ボール等で作品を作るのに繋げると面白かったかも ・継続して取り組む姿も見たい

質問

- ・導入はしたのか。どのような形で始めたのか→朝の会で活動予告をする際、「いもほりのあとに畑で楽しい遊びのコーナーがあるよ」と話した。
- ・お絵描きが終わった後の段ボール、紙等はその後どうなったのか→この日は感覚的に思い切り遊んでもらいたかったので特にその後使用はしなかった(思い切り遊んだので紙がぼろぼろになった)